

# 浅野太左衛門家旧蔵『他郷詛盟順簿』

## 解題と翻刻並びに影印

大谷節子

### 【解題】

京都観世会が所蔵する浅野太左衛門家旧蔵資料（浅野文庫）の内、『他郷詛盟順簿』を翻刻し、影印を付す。本書は京都観世会に寄贈される以前、浅野篤義氏宅にて閲覧の機会を得、浅野太左衛門家に同じく京観世と総称された謡の家であった井上次郎右衛門家についての拙稿「京観世統貂——井上次郎右衛門家を中心に——」（『神女大国文』十号、一九九九年三月）の中で、次のように言及したものである。

浅野氏宅には外題に『他郷詛盟順簿』と記す、浅野太左衛門家の京以外の門弟を纏めた仮綴の門人録が残さ

れており、これには、大坂（宝暦二年十一月四日）、淀（天明六年四月六日）、摂州富田高槻（明和二年十一月朔日）、城州内里村（寛政十年十一月）、讃州観音寺（宝暦十一年三月二十九日）、丹州柏原（宝暦十一年三月二十九日）、江州（宝暦十一年二月二十一日）、上州（安永二年四月五日）、伏見（明和二年九月）などに下っていることが記されている。表紙には「但シ濃州之分者在別簿」と但し書きがあり、残念ながらこの濃州の門人を記した冊は残っていないが、美濃は井上次郎右衛門家の場合と同様、別冊になるほど、京周辺に次いで謡が盛んで門人が多かったであろう。

本書は、縦一・二・四糎、横一七・三糎、楮紙、長帳綴、一冊、墨付十四丁、遊紙一丁。外題は表紙（共紙）中央に墨書直書にて「他郷詛盟順簿」、左脇に分かち書きにて「但シ濃州之分者／在別簿」と記す。裏表紙（共紙）には、「文化五歳在戊辰六月／浅野」との墨書がある。十五丁オに「京都観世会浅野文庫」の朱文陽刻長方形印。文化五年当時の浅野家当主は、八代浅野栄足。本書は、一丁オに「下一札国所書」とあるように、誓詞一札を入れた浅野太左衛門家門人を国別に整理したものであり、記載年月日の最も古いものは宝暦二年、最後は文政十三年である。なお、浅野家と同じく謡教授の師として多くの弟子を抱えていた岩井七郎右衛門家旧蔵資料の中には、弟子が書く入門誓詞の起請文や、弟子に下す一札の案文が伝わる（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究報告11『謡を楽しむ文化——京都の謡の風景』所収「岩井家旧蔵資料目録」一一（一）、二〇一六年）。

八丁オから八丁ウにかけて見られる朱筆による追記四ヶ所（文政十二年、天保二年。いずれも栄足の代）の内  
の三つにある「片町神文」の片町は、当時の観世大夫拝領屋敷があった場所、各々入門より五年、八年、九年後に観世家の直門となったことを示している。その際浅野家は取立を務めた（観世文庫蔵「御直弟御習事濟人控」

参照。

最も古い記載である宝暦二年時の当主は、浅野家四代栄貞。前述のように裏表紙に記される文化五年時の当主は八代栄足であり、栄足の先代である浅野家七代の廣明が亡くなったのが文化二年四月（拙稿「浅野太左衛門家旧蔵『徒歌授受伝』『能楽余録』解題と翻刻」『成城国文学論集』第四十集、二〇一八年掲載の浅野太左衛門家系図参照）であることから、本書は、当主となった栄足が、四代以来の主要な門人を国別に整理したものと判断される。

大部な門人帳が現存する井上次郎右衛門家、園久兵衛家に比して、記される人名の数が少ないことも、嘗てあったと思われる門人帳からの叙上のような抜き書きの経緯を推測させる。なお、本書の大半は栄足自身の筆と思われるが、一部に他筆も認められる。

前稿で述べたように、本書は浅野太左衛門家の江戸中期における活動範囲を知ることができる貴重な資料であるが、加えて、二丁オに、浅野清左衛門栄清・浅野清左衛門栄成・浅野清左衛門栄了・浅野清左衛門近良と、浅野清左衛門を名乗る四人の名前が大坂の門人名簿の冒頭に列記されていることが注目される。栄清は、浅野家二代栄次の子（三代栄富の兄弟）、栄成は栄清の子、栄了は栄富の子、近良は栄了の子である。この四名は、栄清を初代として清左衛門を襲名する浅野家の分家の当主で、初代清左衛門栄清（理兵衛。後に栄忠）は元禄一六年に没している（法名宗栄日清。菩提寺は大坂高津中寺町円明寺）。

なお、この「大坂」のみが入門年代順の記載ではなく、この一冊における最も古い入門者である「松田太郎」と次の「奥邨莊九郎」が後になっている。浅野清左衛門近良の入門年月日の右肩にある記号△は、松田太郎の入門年月日の右肩にある記号▽と共に本来の順の指示であろう。入門年月日のない浅野清左衛門家の初代か

ら三代目までの名を掲げた上で近良の入門年月日が冒頭に書かれているのは、近良の代に清左衛門家が浅野太左衛門家の弟子家として位置付けられたことを示しているのである。

付記 本書の翻刻、影印掲載をご許可いただいた京都観世会のご高配に感謝申し上げます。

### 凡例

- 一、翻刻は原文通りを原則とした。
- 一、人名の右肩にはカギ印を付した箇所があるが翻刻では省略した。体裁を含め、影印を参照されたい。
- 一、地方ごとに丁は改められており、その半丁前の上方角にも小字で各々の地方名が記されているが、翻刻では省略した。
- 一、本書の朱と墨の書き入れは小字で示し、その内朱筆については【】で示した。
- 一、私の注記は（ ）で示した。

【翻刻】

他郷誼盟順簿

但シ濃州之分  
在別簿

一 下一札国所書

大坂

富田  
高槻

讃岐

江州

伏見

二 淀

内里邨

丹州

上州

大坂誓約下一札順

浅野清左衛門  
栄清

浅野清左衛門  
栄成

(表紙)

┌(二丁才)

(二丁ウ白紙)

浅野清左衛門 栄了〔宗庫〕を墨滅)

△宝曆四戌八月十二日

浅野清左衛門 近良

明和三戌

小寺長右衛門

〔二丁才〕

明和八卯四月十三日

神田平兵衛 单義

安永三年三月廿九日

奥邨卯八 蔭近

寛政四子二月廿一日

上田六兵衛 伊興

▽宝曆二申十一月四日

松田十郎 光信

宝曆三酉十月廿三日

奥邨莊次郎 知愛

〔二丁ウ〕

淀誓約下一札順

天明六年四月六日

中東次右衛門 邦祝

寛政六寅十一月七日

中東次助 貞長

中東治太郎

中東治太郎

〔三丁才〕

(三丁ウ白紙)

摂州富田下一札順

高槻

明和 二酉十一月朔日

富田清水市良右衛門 利光

安永 三年九月十一日

高槻岡田嘉右衛門 恭貞

〔四丁才〕

城州内里邨下一札順

〔四丁ウ白紙〕

寛政 十年十一月

藤沢常次良 峯孝

〔五丁才〕

讚州観音寺下一札順

〔五丁ウ白紙〕

宝曆 十一巳三月廿九日

本宮多仲 信之

明和 二酉六月廿四日

本宮佐内 信義

〔六丁才〕

寛政 元酉八月十五日

田守次郎助 宜宜

〔六丁ウ白紙〕

同

弾亦三郎 長

寛政 七卯十月十五日

小島左膳 定信

同

下邨文蔵 兼豪

同 上田喜藏 親綱

同 田守惣八 尊明

「(七丁才)

同 杵村忠兵衛

寛政九巳九月十四日 綴喜源三郎 宗明

寛政十一未四月三日 中村岩藏

同 林彦作 之静

同 岡本善吉 栄寿

寛政十三酉三月廿一日 綾木六右衛門 一當

「(七丁ウ)

文政三年辰三月 楠本茂助 正次

同 橋本利三郎 義利

同 田原小三郎 元渡

同 綾木安兵衛 邦孝

同 藤井牛之介 清兼

同 石田〔井〕を墨滅して「田」次兵衛 治共「(八丁才)

同 岩井矢四郎 行一

同 巽亀三郎 公孝

同 西村平兵衛 友貞

同 〔天保二年卯二月弓町神文〕  
同 九戌五月



江州下一札順

(十丁ウ白紙)

宝曆十一巳七月廿一日

日野 中井清次右衛門 久豊

同 相坂藤太

水口 堀井茂助

寛政六寅十月

八幡 世継喜右衛門 真美

文化四卯九月

同 喜多伝兵衛 定賢

(十一丁才)

天明四辰十一月廿五日

同元京住中門弟也 田中孫兵衛 光平

(十一丁ウ)

上州下一札順

安永二巳四月五日

鈴木源右衛門 信安

(十二丁才)

(十二丁ウ白紙)

(十三丁才白紙)

(欠損、「伏見」カ) 誓約下一札順

浅野太左衛門家旧蔵『他郷盟順簿』解題と翻刻並びに影印

明和二酉九月

安永七戊六月廿七日

大塚市兵衛 重保

弾亦兵衛 長経

下邦六兵衛柳方 春房

服部金助 教迢

服部善右衛門 重矩

今井甚兵衛 重春

山本伊平次

岡田宗兵衛 驚光

服部次郎介 教貞

中村喜兵衛 宜安

長谷川源兵衛 重則

川西源兵衛 定英

内山清兵衛 忠賢

服部喜十郎 定保

渡辺牛之助

中條岩三郎 伴郷

橋本利兵衛 秀忠義澄

安永八亥二月八日

〔十四丁ウ〕

〔十四丁才〕

〔十三丁ウ〕

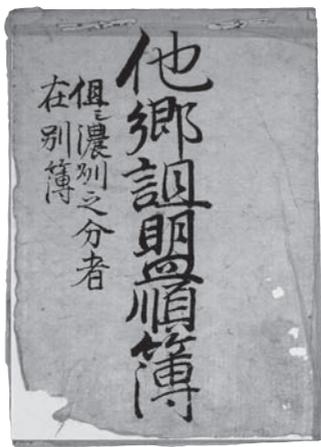
文化五歳在戊辰六月  
浅野

(十五丁才白紙)

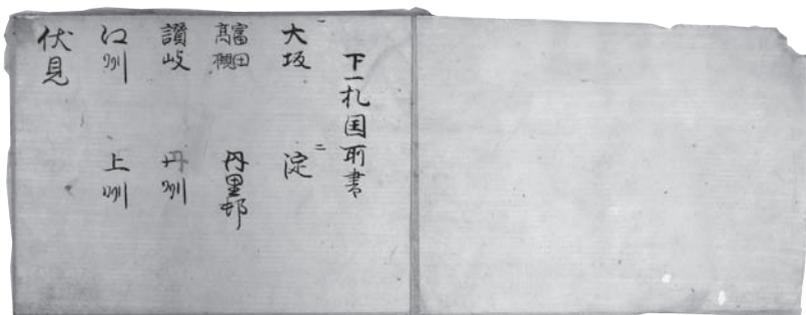
(十五丁ウ白紙)

(裏表紙)

【影印】

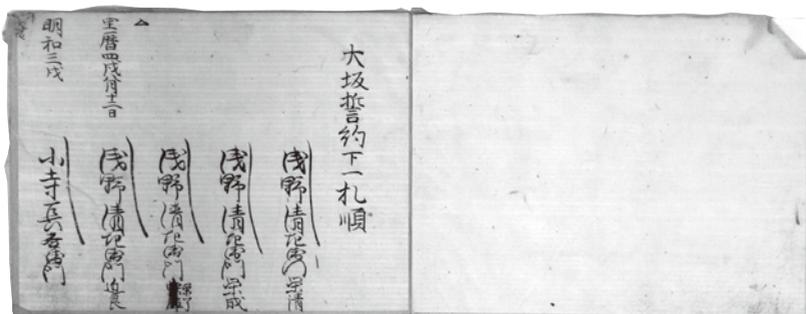


(表紙)



(一丁オ)

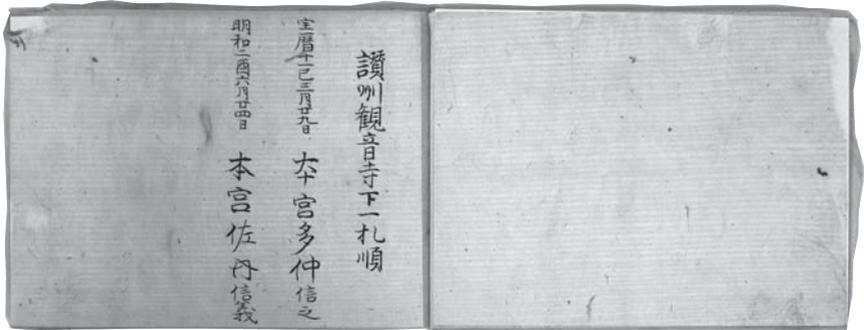
(表紙見返し)



(二丁オ)

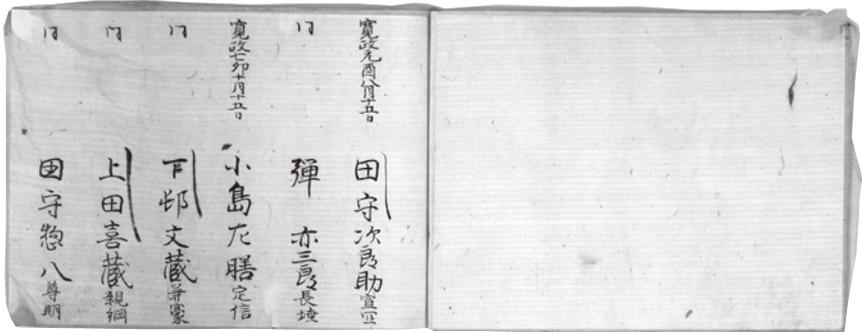
(一丁ウ)





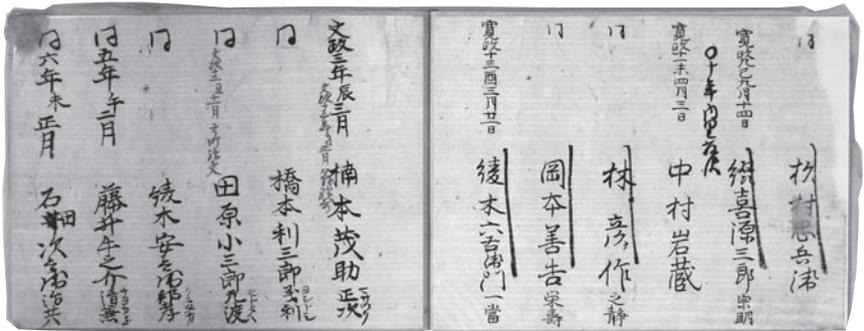
(六丁オ)

(五丁ウ)



(七丁オ)

(六丁ウ)

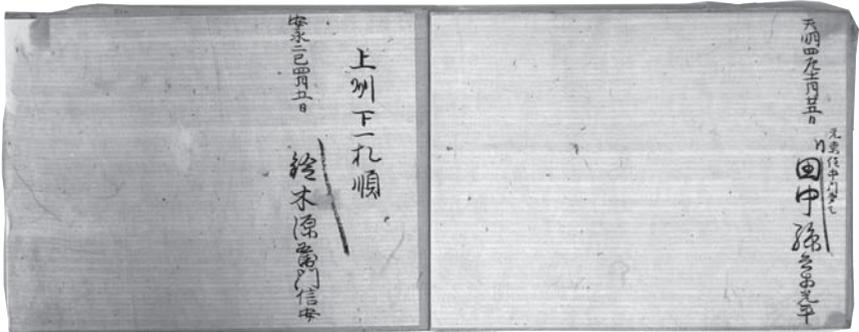


(八丁オ)

(七丁ウ)

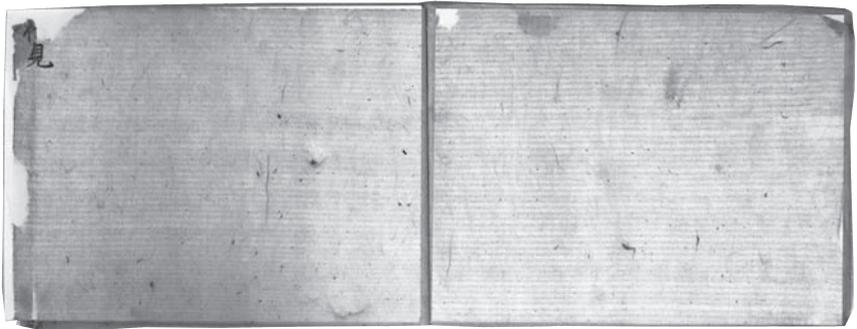


浅野太左衛門家旧蔵『他郷盟順簿』解題と翻刻並びに影印



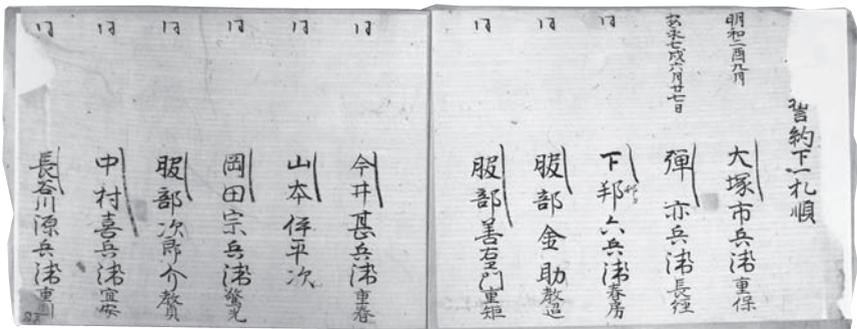
(十二丁オ)

(十一丁ウ)



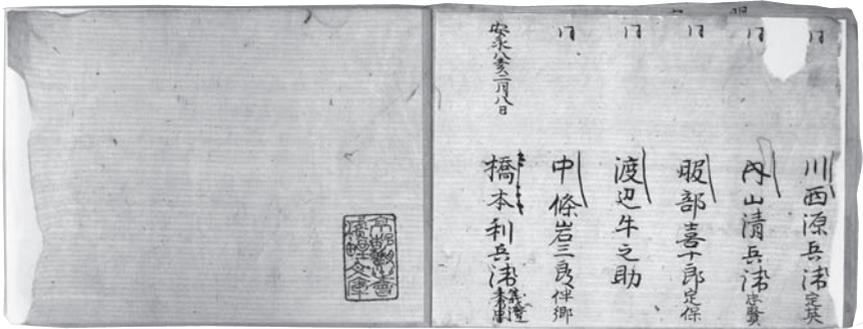
(十三丁オ)

(十二丁ウ)



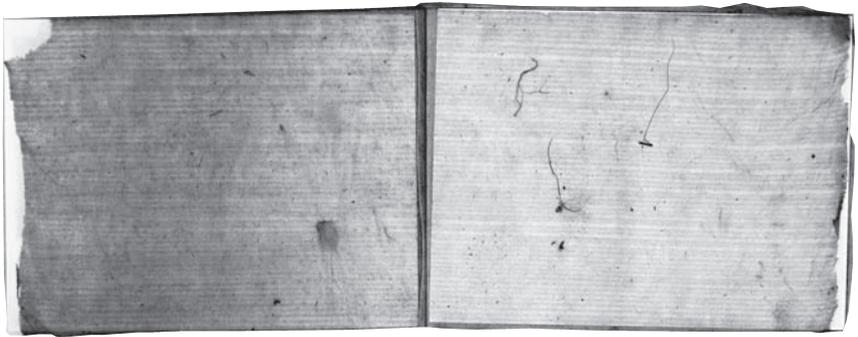
(十四丁オ)

(十三丁ウ)



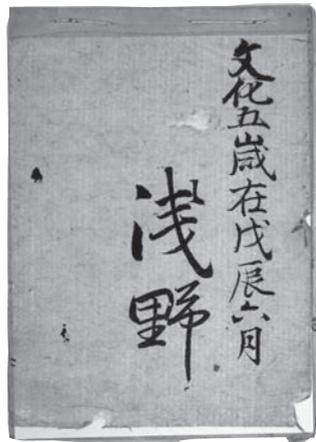
(十五丁オ)

(十四丁ウ)



(裏表紙見返し)

(十五丁ウ)



(裏表紙)